

第1問（必答問題） 次の問1～問5に答えよ。

解答

$$\text{問1 } -5x + 12 \leq 3x + 5, \quad 7 \leq 8x, \quad \therefore \frac{7}{8} \leq x \quad \dots \textcircled{1}$$

$$|-x + 1| < \frac{1}{7}, \quad -\frac{1}{7} < -x + 1 < \frac{1}{7}, \quad -\frac{1}{7} < x - 1 < \frac{1}{7}, \quad \therefore \frac{6}{7} < x < \frac{8}{7} \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\text{ここで, } \frac{6}{7} < \frac{7}{8} < \frac{8}{7} \text{ に注意すれば, } \textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より, この連立不等式の解は, } \frac{7}{8} \leq x < \frac{8}{7}$$

$$\text{問2 } t = 2^x \text{ とおくと, この不等式は } t^2 + 5t - 6 \leq 0,$$

$$\text{これを解くと, } (t+6)(t-1) \leq 0, \quad -6 \leq t \leq 1 \text{ を得る。}$$

$$\text{ここで, } t = 2^x > 0 \text{ に注意すれば, この } t \text{ に関する不等式の解は, } 0 < t \leq 1 \text{ である。}$$

$$\text{これは, } x \text{ に関して, } 0 < 2^x \leq 2^0 \text{ であるので, 問題の不等式の解は } x \leq 0$$

$$\text{問3 } \log_9 64 = \frac{\log_3 2^6}{\log_3 3^2} = \frac{6 \log_3 2}{2} = 3 \log_3 2 = \log_3 8, \text{ よって, } 3^{\log_9 64} = 3^{\log_3 8} = 8$$

問4

$$\begin{aligned} \cos \frac{19\pi}{12} &= \cos \left(-\frac{5\pi}{12} \right) = \cos \frac{5\pi}{12} = \cos \left(\frac{2\pi + 3\pi}{12} \right) = \cos \left(\frac{2\pi}{12} + \frac{3\pi}{12} \right) \\ &= \cos \left(\frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{4} \right) = \cos \frac{\pi}{6} \cos \frac{\pi}{4} - \sin \frac{\pi}{6} \sin \frac{\pi}{4} = \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} - \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2} \\ &= \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} \quad \left(= \frac{(\sqrt{3} - 1)\sqrt{2}}{4} \right) \end{aligned}$$

$$\text{問5 } x^2 + y^2 + ax - by + 1 = \left(x + \frac{a}{2} \right)^2 - \left(\frac{a}{2} \right)^2 + \left(y - \frac{b}{2} \right)^2 - \left(\frac{b}{2} \right)^2 + 1 = 0 \text{ より, 与式は}$$

$$\left(x + \frac{a}{2} \right)^2 + \left(y - \frac{b}{2} \right)^2 = \left(\frac{a}{2} \right)^2 + \left(\frac{b}{2} \right)^2 - 1$$

この半径が1であるから,

$$\left(\frac{a}{2} \right)^2 + \left(\frac{b}{2} \right)^2 - 1 = 1, \quad \left(\frac{a}{2} \right)^2 + \left(\frac{b}{2} \right)^2 = 2, \quad a^2 + b^2 = 8$$

よって, a, b の満たすべき条件は,

$$a^2 + b^2 = 8$$

第2問 (必答問題)

解答

(1) $y = x(x - 2a) = x^2 - 2ax = (x - a)^2 - a^2$ より, 軸の方程式は, $x = a$

(2) (1) より, $f(x)$ の最小値は, $-a^2$

(3) 連立方程式 $\begin{cases} y = x(x - 2a) \\ y = ax \end{cases}$ を解いて,

$$\begin{aligned} x^2 - 2ax &= ax, & x^2 - 3ax &= 0 \\ x(x - 3a) &= 0, & \therefore x &= 0, 3a \end{aligned}$$

よって, 交点は $(0, 0)$, $(3a, 3a^2)$ で, 求める点 P は, $P(3a, 3a^2)$

(4) 求める面積 S_1 は,

$$S_1 = \int_0^a (g(x) - f(x)) dx = \int_0^a (3ax - x^2) dx = \left[\frac{3a}{2}x^2 - \frac{1}{3}x^3 \right]_0^a = \frac{3a^3}{2} - \frac{a^3}{3} = \frac{7a^3}{6}$$

(5) 求める面積 S_2 は,

$$\begin{aligned} S_2 &= \int_a^{3a} (g(x) - f(x)) dx = \left[\frac{3a}{2}x^2 - \frac{1}{3}x^3 \right]_a^{3a} \\ &= \frac{27a^3}{2} - \frac{27a^3}{3} - \left(\frac{3a^3}{2} - \frac{a^3}{3} \right) = \frac{27a^3}{6} - \frac{7a^3}{6} = \frac{10a^3}{3} \end{aligned}$$

(6) 求める面積 S_3 は,

$$S_3 = \int_{2a}^{3a} f(x) dx = \int_{2a}^{3a} (x^2 - 2ax) dx = \left[\frac{1}{3}x^3 - ax^2 \right]_{2a}^{3a} = 0 - \left(-\frac{4}{3}a^3 \right) = \frac{4}{3}a^3$$

第3問 (必答問題)

解答

- (1) 証明 d が奇数のとき、 $d+1$ は偶数であるので、 $(d+1)(d+2)$ は2で割り切れる。
 d が偶数のとき、 $d+2$ も偶数であるので、 $(d+1)(d+2)$ は2で割り切れる。
自然数 d は奇数または偶数であるので、以上の議論により

「任意の自然数 d に対して、 $(d+1)(d+2)$ は2で割り切れる」…①

が証明された。

- (2) 証明 まず、

「任意の自然数 d に対して、 $(d+1)(d+2)(2d+3)$ が3で割り切れる。」…②

を証明する。

任意の自然数 d はある自然数 k を用いて $3k-2$, $3k-1$, $3k$ のいずれかとして表されるので、それぞれ個別に考える。

(i) $d = 3k-2$ と表されるとき、 $d+2 = (3k-2)+2 = 3k$ であるので、 $(d+1)(d+2)(2d+3)$ が3で割り切れる。

(ii) $d = 3k-1$ と表されるとき、 $d+1 = (3k-1)+1 = 3k$ であるので、 $(d+1)(d+2)(2d+3)$ が3で割り切れる。

(iii) $d = 3k$ と表されるとき、 $2d+3 = 2 \cdot 3k+3 = 3(2k+1)$ であるので、 $(d+1)(d+2)(2d+3)$ が3で割り切れる。

以上より、②が示された。(1)で示した①と②より、任意の自然数 d に対して、 $(d+1)(d+2)(2d+3)$ は6で割り切れる。

第4問～第6問から、2問を選択し、解答しなさい。

第4問 (選択問題)

解答

(1) $a_1 = 0, a_2 = -1, a_3 = 0, a_4 = 1, a_5 = 0$

(2) (1) から数列 $\{a_n\}$ は周期 4 で規則的な値を持つ。

今、 $2025 = 506 \times 4 + 1$ であり、 $a_{2025} = 0$ は (1) の規則性から分かるので、

$$\sum_{k=1}^{2025} a_k = \sum_{k=1}^{506} (a_{4k-3} + a_{4k-2} + a_{4k-1} + a_{4k}) + a_{2025} = \sum_{k=1}^{506} 0 + a_{2025} = 0 + a_{2025} = 0$$

(3) $n \geq 2$ のとき、 $b_n = a_{n-1}$ であるので

$$b_n = a_{n-1} = \cos \frac{(n-1)\pi}{2} = \cos \left(\frac{n\pi}{2} - \frac{\pi}{2} \right) = \cos \frac{n\pi}{2} \cos \frac{\pi}{2} + \sin \frac{n\pi}{2} \sin \frac{\pi}{2} = \sin \frac{n\pi}{2}$$

これは、 $n = 1$ のときも、 $b_1 = \sin \frac{\pi}{2} = 1$ と与えられた条件を満たすので、

$n \geq 1$ に対して、 $b_n = \sin \frac{n\pi}{2}$ である。以上より、

$$a_n^2 + b_n^2 = \cos^2 \frac{n\pi}{2} + \sin^2 \frac{n\pi}{2} = 1$$

である。

(4) (3) より、 $b_n = \sin \frac{n\pi}{2}$ であるので、加法定理より

$$a_m a_n - b_m b_n = \cos \frac{m\pi}{2} \cos \frac{n\pi}{2} - \sin \frac{m\pi}{2} \sin \frac{n\pi}{2} = \cos \frac{(m+n)\pi}{2}$$

第4問～第6問から、2問を選択し、解答しなさい。

第5問 (選択問題)

解答 $\begin{cases} \vec{a} = 3\vec{OP} + 2\vec{OQ} \\ \vec{b} = 5\vec{OP} + 4\vec{OQ} \end{cases}$ より, $\begin{cases} \vec{OP} = 2\vec{a} - \vec{b} \\ \vec{OQ} = -\frac{5}{2}\vec{a} + \frac{3}{2}\vec{b} \end{cases}$ を得る。

$|\vec{a}| = |\vec{b}| = 1$ であり, $\vec{a}$ と $\vec{b}$ がなす角を θ とおくと, $\vec{a} \cdot \vec{b} = \cos \theta$ となる。

(1) $\theta = 0$ であるから, $\vec{a} \cdot \vec{b} = \cos \theta = 1$ である。

$$|\vec{OP}|^2 = \vec{OP} \cdot \vec{OP} = (2\vec{a} - \vec{b}) \cdot (2\vec{a} - \vec{b}) = 4|\vec{a}|^2 - 4\vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2 = 4 - 4 + 1 = 1$$

故に, $|\vec{OP}| = 1$

(2) $\theta = \frac{\pi}{6}$ であるから, $\vec{a} \cdot \vec{b} = \cos \theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$ である。

$$|2\vec{OQ}|^2 = (2\vec{OQ}) \cdot (2\vec{OQ}) = (-5\vec{a} + 3\vec{b}) \cdot (-5\vec{a} + 3\vec{b}) = 25|\vec{a}|^2 - 30\vec{a} \cdot \vec{b} + 9|\vec{b}|^2 = 34 - 15\sqrt{3}$$

(3) $\vec{OP} - 2\vec{OQ} = 7\vec{a} - 4\vec{b}$ であるので,

$$\begin{aligned} |\vec{OP} - 2\vec{OQ}|^2 &= (\vec{OP} - 2\vec{OQ}) \cdot (\vec{OP} - 2\vec{OQ}) \\ &= (7\vec{a} - 4\vec{b}) \cdot (7\vec{a} - 4\vec{b}) = 49|\vec{a}|^2 - 56\vec{a} \cdot \vec{b} + 16|\vec{b}|^2 = 65 - 56\cos \theta \end{aligned}$$

$$\therefore |\vec{OP} - 2\vec{OQ}|^2 = 65 - 56\cos \theta \quad \dots \textcircled{1}$$

$\theta = \frac{\pi}{3}$ であるから, $\vec{a} \cdot \vec{b} = \cos \theta = \frac{1}{2}$ である。

故に, $|\vec{OP} - 2\vec{OQ}|^2 = 37$, したがって, $|\vec{OP} - 2\vec{OQ}| = \sqrt{37}$

(4) (3) の①と $-1 \leq \cos \theta \leq 1$ より,

$$\text{最大値} \quad |\vec{OP} - 2\vec{OQ}|^2 = 121 \quad \therefore |\vec{OP} - 2\vec{OQ}| = 11 \quad (\cos \theta = -1 \text{ のとき})$$

$$\text{最小値} \quad |\vec{OP} - 2\vec{OQ}|^2 = 9 \quad \therefore |\vec{OP} - 2\vec{OQ}| = 3 \quad (\cos \theta = 1 \text{ のとき})$$

第 4 問～第 6 問から、2 問を選択し、解答しなさい。

第 6 問 (選択問題)

解答

- (1) X は二項分布 $B(100, 0.2)$ に従うので、その期待値と標準偏差は、

$$m = 100 \times 0.2 = 20, \quad \sigma = \sqrt{100 \times 0.2 \times 0.8} = 4$$

- (2) $X = 9$ より、 $Z = \frac{9 - 20}{4} = -2.75$ である。

- (3) 正規分布表より、この仮説に対する有意水準 0.5% の棄却域は、 $P(0 \leq Z \leq 2.58) = 0.4950$ と正規分布の対称性より、

$$Z \leq -2.58$$

である。

- (4) (2) より、 $Z = -2.75$ であり、この値は (3) で求めた棄却域に入るから、仮説は棄却できる。
すなわち、改良によって不良率が下がったと判断してよい。